

8月のユーロ圏PMIは市場予想を下回る

ユーロ圏は4月には新型コロナウイルスの新規感染者数が減少に転じるなど、比較的早期に感染収束が見られ、また経済支援策により景気の底打ちから回復が続いていました。しかし、ユーロ圏でも一部の国で感染再拡大が見られ、指標も悪化したことから景気の先行きが気になります。ただコロナ感染の動向次第ながら、ユーロ圏経済に底堅さも残されていると見られます。

8月のユーロ圏PMI: サービス業PMIを中心に市場予想を下回り、回復の鈍化を示唆

IHSマークイットが2020年8月21日に発表した8月ユーロ圏コンポジット(総合)購買担当者景気指数(PMI、速報値)は51.6と、市場予想(55.0)、7月(54.9)を下回りました(図表1参照)。

内訳は、製造業PMIが51.7と、市場予想(52.7)を下回るも、前月(51.8)とほぼ変わらずとなりました。サービス業PMIは50.1と、市場予想(54.5)、前月(54.7)を下回りました。

どこに注目すべきか:

ユーロ圏PMI、サービス業、高頻度データ

ユーロ圏は4月には新型コロナウイルスの新規感染者数が減少に転じるなど、比較的早期に感染収束が見られ、また経済支援策により景気の底打ちから回復が続いていました。しかし、ユーロ圏でも一部の国で感染再拡大が見られ、指標も悪化したことから景気の先行きが気になります。ただコロナ感染の動向次第ながら、ユーロ圏経済に底堅さも残されていると見られます。

まず、8月のユーロ圏PMIの内容を振り返ります。製造業とサービス業で分けると、前月に比べ落ち込んだのはサービス業で、製造業は前月とほぼ同水準でした。サービス業が悪化した背景は、新型コロナの感染再拡大により、旅行の不振や外出が一部制限され、飲食店は営業時間が短縮されるケースもあるなどサービス業関連に悪影響が及んだと見られます。国別では製造業PMIが底堅かったドイツは、コンポジットPMIは53.7と前月(55.3)からの悪化は比較的小幅でした。一方、製造業、サービス業共に軟調であったフランスのコンポジットPMIは51.7と、前月(57.3)を大幅に下回りました。

次に、ユーロ圏のコロナ感染の動向を見ると、一部の国では7月後半頃から新規感染者数が増加に転じています。例えば、フランスでは23日の新規感染者が4897人と報道され、4月半ばのピーク以来の多さとなっています。特に感染者が多いのはスペインで、1日あたりの新規感染者が足元1万人に迫る勢いです。ドイツは比較的感染再拡大は抑えられて

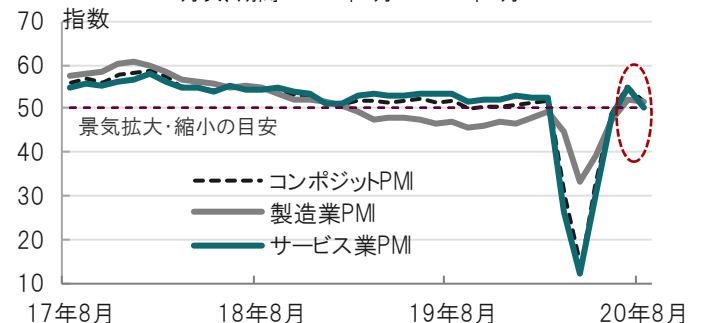
いますが、8月後半には1日2000人超を記録する日もあるなど、警戒モードは高まっています。

コロナ感染再拡大の影響の一側面を確認するために、レストラン予約や小売業の客足(店舗を訪れた人、前年比)を見ると感染の拡大に伴い7月頃から減速しています(図表2参照)。ただ都市封鎖が導入された3月から5月頃のような極端な落ち込みは回避されており、感染抑制と経済のバランスをとる政策へのシフトが感じられます。

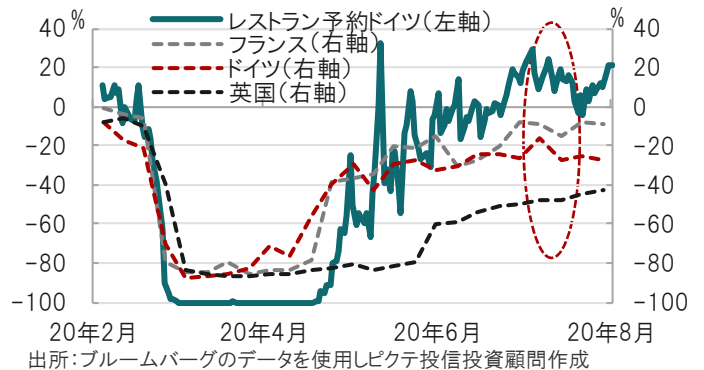
なお、先の8月PMIは7月中旬から8月中旬が調査対象期間で、コロナの感染再拡大が出た時期に重なっています。市場予想を大きく下回ったひとつの背景なのかもしれません。

さらに、高頻度データの足元を見ると、短期的な下落に歯止めがかかったように見えます。もっとも高頻度データの範囲には限りがあり、これだけで全体の動向を判断するのは無理もあります。コロナの動向次第ながら総合的に見て、ユーロ圏景気の再度の急落までも想定する必要は低いと思われます。

図表1: ユーロ圏PMI(製造業、サービス業、コンポジット)の推移
月次、期間: 2017年8月~2020年8月



図表2: 欧州サービス業の主な高頻度データ(前年比)推移
日次、期間: 2020年2月24日~2020年8月20日、小売業(点線)は週次



出所: ブルームバーグのデータを使用しピクテ投信投資顧問作成